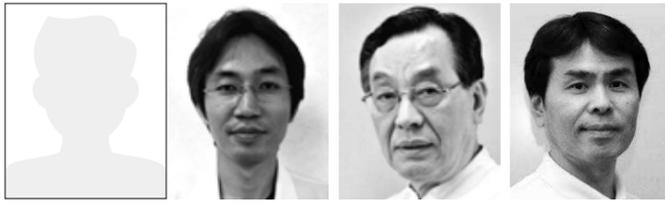


心臓血管外科・外科

スタッフ



大野 猛三 大川 洋平 (院長・心臓血管センター長) 野村 文一 (主任診療部長) 横山 秀雄 (診療部長) 馬場 俊雄 (主任医長) 鈴木 正人 (主任医長) 森本 清貴 (医長)



藤田 きしゅう (医長) 大堀 俊介 (医長) 杉木 健司 (医師) 【外科】田中 久史 (診療部長)

I 特色

当科の特色は、道内でもトップクラスの手術件数の多さが挙げられ、2018年の手術総数は486件、うち心臓胸部大血管手術は297例、手術死亡はありませんでした。緊急手術や透析患者様の手術も施行しておりますが、この結果は満足すべきものと判断しております。しかし、これに慢心することなく、今後も謙虚に仕事をして、手術件数を増やしていくことが今後の目標になっております。そのためには常に症例一つ一つを大切に、患者にとって一番大切な事は何かを考慮し、正しい医療を行っていきたくと考えております。また、当科では特に低侵襲手術に力を入れることにより、患者様に負担が少なく質の高い手術を提供しています。虚血性心疾患に対して行う冠動脈バイパス術では、人工心肺を使用しないオフポンプバイパス術を行います。大動脈弁狭窄症に対しては循環器内科と協働で経カテーテル的大動脈弁置換術を行います。僧帽弁閉鎖不全症に対しては弁形成術を第一選択としますが、可能であれば骨を切らずに皮膚切開を4-5cmで行う右開胸小切開手術を行います。2018年からは手術支援ロボットであるda Vinci Xiを用いたロボット支援下心臓手術を東北北海道で最初に導入しており、更なる低侵襲を実現しています。大動脈瘤に対してはステントグラフト手術を行います。下肢静脈瘤には局所麻酔でアブレーションを使って行います。このように当科では可能な限り低侵襲手術を行い、患者様に対しやさしい医療を心がけています。

II 診療内容

当科は虚血性心疾患、弁膜症、心臓腫瘍、成人先天性心疾患といった心臓疾患と胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤など血管疾患を担当します。手術は心臓移植以外の成人心臓血管手術はほとんど全て行います。

III 活動報告 (症例実績等)

1. はじめに

2018年、当院の心臓血管外科は9人のメンバーで始まりました。実際に心臓血管外科手術に携わるのは6人です。正月3日に緊急手術があり、今年も平穏には済まない予感の中、2018年は始まりました。

2018年はメンバーの変更があり、藤田医師が3月末で退職され、4月からは市立函館病院で勤務されていた馬場医師が当科へ着任されました。10月までは安定した人数で臨床を行うことができました。主な手術に携わる医師は6人であり、一人が外来に出ていると並列で手術が可能で緊急手術や学会等にも柔軟に対応できる体制を維持できました。ところが、11月に大野院長が退職され、また同月、馬場医師が釧路孝仁会記念病院へ転任され、5人の医師で手術を行う必要があり、後半はかなり厳しい環境になりました。9月には大地震とそれに伴う停電があり、当院も停電下での診療にあたり、多くの方々にご協力を頂きました。ご協力くださった皆様、誠にありがとうございます。その他には大きなイベントや事故も無く日々の手術を粛々とこなして参りました。また、当院の特長である右開胸小切開心臓手術(MICS)は12例(僧帽弁形成術9例、僧帽弁形成+三尖弁形成術2例、大動脈弁置換術1例)に実施しました。症例数はまだまだ少なく、今後の課題となっております。また、更なる低侵襲心臓手術を目指し、10月9日には東北北海道初のロボット支援下心臓手術(僧帽弁形成術)を施行致しました。今後はda Vinci Xiを用いた心臓手術の症例を更に重ねていきたいと思っております。

2. 2018年手術概要

手術総数は486(昨年より34例増加)、人工心肺症例は199例(昨年より45例増加)、OPCAB45例(昨年よりも4例減少)でした。心臓血管外科症例として297例、昨年より40例の増加ですが、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)を差し引くと263例と昨年より42例増加となります。腹部以下動脈手術は90例(昨年より5例増加)、静脈瘤手術35例(昨年よりも20例減少)、その他67例でした。昨年より若干、手術件数は増加しております。

3. 先天性心疾患

冠動脈静脈洞瘻と冠動脈起始異常の手術がありました。

4. 後天性心疾患

- (1) 弁膜症 胸部大動脈瘤を併施しない弁膜症手術は118例でした(昨年より30例増加)。機械弁12(大動脈弁4、僧帽弁8)、生体弁90(大動脈弁64、僧帽弁25、三尖弁1)、弁形成70例(僧帽弁37、三尖弁33)でした。冠動脈バイパス術併施数は39例でした。僧帽弁逆流に関しては形成術を可能な限り行うことにしています。またMICSによる弁膜症手術を12例(僧帽弁形成9例、大動脈弁置換1例、僧帽弁形成+三尖弁形成2例)に施行しております。うち2例はda Vinci Xiを用いたロボット支援下心臓手術で施行しております。経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)は経大腿動脈を31例、経心尖部を1例に施行しております。
- (2) 虚血性心疾患 単独冠動脈バイパス術は61例(昨年と同数)で、うちオフポンプバイパス術は47例でした。心筋梗塞合併症に対する手術は心室中隔穿孔閉鎖術を1例に施行しました。
- (3) 不整脈に対する手術 Maze手術を27例(昨年より17例増加)に行いました。
- (4) その他 心臓腫瘍に対して1例の切除術を行っています。肥厚性閉塞性心筋症に対する心筋切除1例、その他が1例でした。

5. 胸部大動脈瘤(66例、昨年より12例増加)

- (1) 解離性(18例) 急性期のStanford Type Aに対して緊急で14例(上行大動脈3例、基部置換1例、上行+弓部8例、基部置換+上行+弓部1例、ステントグラフト1例)の手術を行いました。また急性期のType Bに対して2例ステントグラフトを施行しております。慢性期のType Bに対しステントグラフトを5例行っています。
- (2) 非解離性(52例) 非破裂性は上行大動脈11例、大動脈基部置換術8例、上行+弓部9例、ステントグラフト21例でした。

6. 腹部大動脈以下動脈手術（90例、昨年より5例増加）

腹部大動脈瘤に対する手術は53例、うち人工血管置換術25例、ステントグラフト28例でした。その他37例の動脈手術がありました。

7. 静脈（35例、昨年より20例減少）

下肢静脈瘤手術が35例でした。2015年より ablation を導入し、半数近くに施行しております。

IV 研究業績**4) 原著・論文****1. 症例報告**

大堀俊介、鈴木正人、藤田きしゅう、森本清貴、馬場俊雄、大川洋平、野村文一、横山秀雄、杉木健司、大野猛三：
経カテーテル大動脈弁置換術後の感染性心内膜炎に対し
て外科的に大動脈弁置換術及び心内修復術を施行した一
例 . 胸部外科 .71 巻 11 号 929～931.2018

脳神経外科

スタッフ



齋藤 孝次 (理事長) 入江 伸介 (福島孝徳脳神経・頭蓋底センター長) 片岡 丈人 (主任診療部長・脳血管内治療センター長) 寺川 雄三 (医長) 早瀬 仁志 (医長) 大阪 美鈴 (医長) 高平 一樹 (医師)

I 特色

- (1) 安全で低侵襲な脳神経外科治療を実践しています。低侵襲治療は、肉体的、精神的なダメージが少なく、入院期間の短縮、早期の社会復帰が可能で、予後の改善が期待できます。
- (2) 機械的血栓回収療法、脳動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、開頭術が常に実施可能で、急性期脳卒中診療に24時間対応可能。
- (3) 重症患者、脳卒中患者に対応したICU, SCUでの管理が可能。
- (4) 放射線治療科と連携した、脳腫瘍に対する集学的治療の実践。

II 診療内容

- (1) 脳血管内手術、(2) 鍵穴手術、(3) 術中MRI、(4) 術中ナビゲーション、(5) 最新手術用顕微鏡、(6) 収束超音波治療 (FUS)、(6) 放射線治療科との連携 (定位的放射線治療)

III 活動報告 (症例実績等)

2018/1/1 ~ 2018/12/31

脳卒中患者数 229

	件数
脳梗塞	181
脳出血	39
くも膜下出血	9

脳神経外科手術 167

	件数
脳腫瘍摘出術	31
開頭脳腫瘍摘出術	25
経鼻的下垂体腫瘍摘出術	6

脳卒中関連手術 36

	件数
脳動脈瘤クリッピング術	19
開頭血腫除去術	10
AVM 摘出術	2
頸動脈内膜剥離術	2
バイパス術	3

機能的手術 24

	件数
神経減圧術	10
MRI ガイド下収束超音波治療	7
脳室腹腔シャント	7

その他 26

	件数
穿頭術	12
その他	14

脳血管内手術 50

	件数
脳動脈瘤塞栓術	19
硬膜動静脈瘻塞栓術	3
頭蓋内血管塞栓術	5
機械的血栓回収療法	13
頸部血管ステント留置術	10

IV 研究業績

4) 原著・論文

1. Lesion location implemented magnetic resonance imaging radiomics for predicting IDH and TERT promoter mutations in grade II/III gliomas. Arita H, Kinoshita M, Kawaguchi A, Takahashi M, Narita Y, Terakawa Y, Tsuyuguchi N, Okita Y, Nonaka M, Moriuchi S, Takagaki M, Fujimoto Y, Fukai J, Izumoto S, Ishibashi K, Nakajima Y, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Mori K, Ichimura K, Kanemura Y. Sci Rep. 2018 Aug 6;8(1):11773. doi: 10.1038/s41598-018-30273-4.
2. Characteristics and outcomes of elderly patients with diffuse gliomas: a multi-institutional cohort study by Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors. Sasaki T, Fukai J, Kodama Y, Hirose T, Okita Y, Moriuchi S, Nonaka M, Tsuyuguchi N, Terakawa Y, Uda T, Tomogane Y, Kinoshita M, Nishida N,

Izumoto S, Nakajima Y, Arita H, Ishibashi K, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Mano M, Fujita K, Uematsu Y, Nakao N, Mori K, Kanemura Y. J Neurooncol. 2018 Nov;140(2):329-339. doi: 10.1007/s11060-018-2957-7.

- 3 完全版 脳血管内治療学 2018/10/5 メディカ出版
 - 1 発生学: 血管の発生 治療上問題となる access 血管の奇形 P33-37 片岡丈人
 - 2 流動学 治療上知っておくべき血栓形成 P236-238 片岡丈人

5) その他

2018年4月17日 大阪市立大学医学部
4回生講義 「脳腫瘍各論—悪性脳腫瘍」
(寺川) 論文査読 (2018年) (寺川)
Clinical Neurology and Neurosurgery
Journal of Cancer and Tumor International
Journal of Case Reports in Medical Science
Journal of Pharmaceutical Research International

消化器外科

スタッフ



川崎 仁司 (主任) 木村 仁 (部長) 久慈 麻里子 (医長)

I 特色

消化器外科は2016年10月の北海道大野記念病院開院とともに新設された診療科です。

当科は消化器（食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓）およびヘルニアの治療を行っています。近年、がんによる死亡が死因の一位となっており、全がん死亡者に占める消化器癌の割合は男女とも約6割を占めています。したがって、特に消化器がんの診断および治療に注力を注いでおります。

消化器診療では、消化器内科と連携し、初診時から治療までをなるべく時間をかけずに行えるような体制を整えています。手術では患者様の回復が早い鏡視下手術（胆石症、大腸癌）を積極的に行っております。鏡視下手術で対応が難しい進行癌に対しては、根治性を求め拡大手術や放射線・抗癌剤を併用した集学的治療を行っています。当院には最新の治療機器を備えた“札幌高機能放射線治療センター”があり、放射線科と連携して治療に当たっています。

人口の高齢化にともない、心疾患・脳疾患などを合併した患者様が増えておりますが、旧大野病院から専門分野として治療を行っていた循環器内科・心臓血管外科および新設された脳神経外科と連絡を取りながら、きめ細やかな周術期の管理をおこなっており、合併症の低減に努めております。年齢を理由に手術を躊躇する患者様がが増えておりますが、実年齢で手術の可否を決めることはなく、患者様の状態を評価して可能な限り安全で効果の高い治療法の検討を行っておりますので、治療方針に関して疑問や不安がある場合には遠慮なくご相談して頂ければと思います。

当科スタッフ一同は患者様の立場にたち、患者様のご意見に耳を傾けながら、満足していただけるよう、より質の高い医療・看護を目指して努力しております。また病気のこと、健康のことなどについて気軽に相談して頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

II 診療内容

消化器（食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓）およびヘルニアの診断および治療
専門分野の中でも特に消化器がんの診断および治療に注力を注いでおります。

III 活動報告（症例実績等）

2018/1 ~ 2018/12

手術

		件数	
胃・十二指腸	幽門側胃切除	6	
	噴門側胃切除	1	
	胃全摘	2	
	その他	1	胃空腸バイパス
胆嚢	腹腔鏡下胆嚢摘出術	26	
	胆嚢摘出術	5	
肝臓	肝切除	3	肝細胞癌 3
膵臓	膵頭十二指腸切除術	1	
	膵全摘術	1	
	膵尾部切除	1	
脾臓	脾摘出術	2	
大腸・小腸	腹腔鏡下結腸切除術	9	
	腹腔鏡下直腸切除術	5	
	開腹下結腸切除術	9	
	開腹下直腸切除術	1	
	ハルトマン手術	1	
	虫垂切除術	2	
	腹腔鏡下虫垂切除術	1	
	イレウス	2	
	小腸切除術	4	
	その他	2	人工肛門閉鎖 1、人工肛門造設 1
肛門	痔核	3	
	肛門狭窄手術	1	
ヘルニア	単径ヘルニア	19	
	臍ヘルニア	1	
	腹壁癒痕ヘルニア	4	
その他		8	腹膜透析チューブ挿入 1、腹膜透析チューブ抜去 1、汎発性腹膜炎 2、門脈ガス症 1、CV ポート挿入 1、粉瘤切除 1、リンパ節生検 1
合計		121	

整形外科

スタッフ



入船 秀仁 (主任院長) 岡崎 俊一郎 (医長) 阿久津 祐子 (医長)

I 特色

整形外科の守備範囲は広く、部位で言えば四肢脊椎骨盤と多岐にわたります。さらに疾患別で言えば、外傷、変性疾患、炎症性疾患、腫瘍性疾患が対象となります。平成31年2月現在、3名の専門医で診療を行っております。当院は元々循環器系疾患に強いということもあり、高齢者の外傷治療を中心に治療を行っています。

外傷に関しては、四肢の骨折ばかりで無く、骨盤、脊椎に至るまで、高いレベルで対応可能であり、また、組織移植が必要な症例に対しても対応可能となっております。現時点では、体制上の問題もあり、緊急手術対応が困難ではありますが、ゆくゆくは体制を整えて対応できるようにして行きたいと考えております。

変性疾患に関しては、四肢脊椎骨盤部のすべての疾患に対応可能ですが、特に下肢の人工関節や、手・肘関節が得意分野となっております。人工股関節は前外側アプローチを採用し、手術時間の短縮や術後合併症の低減を図っており、また、人工膝関節に関しては、全置換、単顆置換のいずれも行っております。手・肘関節に関しては、専門医が2名おり、通常の治療に加えて、積極的に関節鏡による手術も行っております。これ以外の分野は先進的な事まではしていませんが、一般的な治療手技、例えば肩関節では関節鏡による腱板修復や、mini-openでの修復術、脊椎では通常の観血的手術(除圧、固定術など)はおこなっております。当院で対応しきれない症例(特殊症例や原発性の悪性腫瘍など)は札幌医大整形外科と密に連携をとって診療を行っています。

II 診療内容

III 活動報告(症例実績等)

2018/1/1 ~ 2018/12/31

	件数
骨接合術	136
抜釘術	54
人工骨頭挿入術	32
人工関節置換術	28
腱鞘切開術	16
手根管開放術	14
その他	93
合計	303

循環器内科

スタッフ



山下 武廣 (副院長・心臓血管センター長) 長島 雅人 (診療部長) 大嶋 孝則 (診療部長) 鈴木 三和子 (主任医長) 岩切 直樹 (主任医長) 三山 博史 (主任医長) 小熊 康教 (医長)



長堀 亘 (医長) 前野 大志 (医長) 三浦 史郎 (医長) 今井 斎博 (医長) 呉林 英悟 (医師) 中川 俊昭 (医師)

I 特色

【心臓血管センター】

4階東・西病棟の計88床を用い、循環器内科・心臓血管外科の二科が一体となって心血管疾患診療を行っています。医師構成は循環器内科12名、心臓血管外科7名に加え、北大循環病態内科からの外勤医師が外来診療に加わっています。

循環器疾患診療チーム

循環器内科・心臓血管外科の30年以上にわたる有機的な協働により確立した循環器疾患診療チームは、急性心筋梗塞や急性大動脈解離、急性心不全などの心血管救急疾患に365日24時間体制で対応しています。心血管疾患症例に対し、内科～外科の別なく、シームレスでハイレベルな医療を提供することを当センターの最大ミッションとしており、外科手術を含めたすべての選択肢のなかで、短期のみならず長期的見地からも最善の治療法を選択できるよう、常に内科医・外科医の討論を通じて情報を共有しています。

II 診療内容

1) 循環器内科

循環器内科は狭心症・心筋梗塞などの虚血性心疾患や弁膜症、心筋症、心不全、各種不整脈、高血圧、大動脈疾患、末梢血管疾患など、多くの心血管疾患を担当します。従来から特長としているカテーテル介入治療は、器具の細径化、アプローチ部位の選定、止血デバイスの積極使用、さらには新規認証器具の早期導入を通じてさらなる低侵襲化とハイレベル化を目指します。施設認定されているロータブレードとレーザー冠動脈形成術(ELCA)は、引き続き他施設からの治療依頼に積極対応致します。心臓電気生理学的検査(EPS)・経カテーテル心筋焼灼術(アブレーション)を駆使して、不整脈の低侵襲な根治術を実現しています。心不全診療サポートチームの寄与のもと、薬物治療の最適化・包括的心血管リハビリテーションの充実とともに、植え込み型治療デバイスを含めた包括的治療により心不全診療における急性期・長期予後改善を実現しています。最先端の心血管画像診断法(心臓PET、心臓MRI)を駆使することで、より確実で詳細な診断と治療法選択が可能となりました。

低侵襲治療として確立してきた経皮的動脈弁植え込み術(TAVI)を心臓診療チーム(Heart Team)の重点領域として今後も推進致します。経皮的左心耳閉鎖術・経皮的動脈管開存閉鎖術の開始を目指し、経皮的僧帽弁接合不全修復術、経皮的左心耳閉鎖術等、経皮的構造的疾患(Structural Heart Disease)治療にも積極的に取り組んでまいります。

豊富な症例を通じて得られた知見を世に還元すべく学術活動も推奨しています。海外雑誌、国内学会誌、商業誌等へ論文の掲載があり、国内のオピニオンリーダー的立場となっている領域もあります。

III 活動報告(症例実績等)

2018/1/1-2018/12/31

		件数
冠動脈カテーテル検査	CAG	1188
冠動脈カテーテル検査(緊急)		129
電気生理学的検査	EPS	241
経皮的冠動脈形成術	PTCA,PCI	387
経皮的冠動脈形成術(緊急)		90
経皮的カテーテル心筋焼灼術	ABL	239
経皮的抹消血管形成術	PPI(EVT)	90
経皮的腎血管形成術	PTRA	5
経カテーテル大動脈弁植え込み術	TAVI	40
その他カテーテル治療		44
ペースメーカー植え込み術(新規)	PMI	85
ペースメーカー植え込み術(交換)		24
植え込み型除細動器植え込み術(新規)	ICD	10
植え込み型除細動器植え込み術(交換)		1
両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器	CRTD	4
心臓再同期ペースメーカー治療	CRTP	7

IV 研究業績

A-1 英語論文

Kawarada O, Kume T, Zen K, Nakamura S, Hozawa K, Akimitsu T, Asano H, Ando H, Yamamoto Y, Yamashita T, Shinozaki N, Odashiro K, Sato T, Yuba K, Sakanoue Y, Uzu T, Okada K, Fitzgerald PJ, Honda Y, Yasuda S. Difference in cardiac function response to stenting between atherosclerotic renal artery disease with and without heart failure: results from the Carmel study. ESC Heart Failure 2018(in press)

Kurebayashi E, Manabe O, Naya M, Miura S, Yamashita T, Imai Y, Ando A, Miyazaki C, Anzai T.

Viability assessment by 18F-FDG PET in a patient with a large left ventricular aneurysm and obstructive coronary artery disease. J Nucl Cardiol. 2018 Sep 12. [Epub ahead of print]

Miura S, Inoue K, Yamada S, Yamashita T, Ando K.

Two rare cases of congenital aortic stenosis showing a discrepancy between preoperative imaging diagnosis,

intraoperative findings, and histopathological diagnosis. J Cardiol Cases 2018;18:13-16.

Miura S, Inoue K, Amemiya K, Yamashita T, Ando K.

A case of devastating coronary spasm syndrome: Autopsy-proven acute anterolateral myocardial infarction leading to sudden cardiac arrest following unremarkable coronary angiography. Open J Clin Med Case Rep 2018;4(10):1414

B-1 国際学会

Yamashita T:

Successful retrieval of detached tip of torquable microcatheter during rotational atherectomy for calcified lesion: Never give up when it's still on your guidewire – Presenter

Asia PCR 2018, 2018.1.26 (Singapore)

Yamashita T:

Old valves “Die hard”: Unexpected apparition – Presenter

Structural Heart Disease Summit 2018, 2018.6.21
(Chicago, USA)

コール性心筋症の一例
第 120 回日本循環器学会北海道地方会 2018.11.24

Yamashita T:
Endovascular therapy for acute mesenteric ischemia:
Possible roles of interventional cardiologists – Presenter
GICS 2018, 2018.6.8 (Gwangju, Korea)

前野大志 山下武廣 呉林英悟 今井齋博 小熊康教
長堀亘 三山博史 岩切直樹 鈴木三和子 大艸孝則
長島雅人
Stanford B 型急性大動脈解離による上腸間膜動脈の偽腔
血栓による真腔圧排に対して緊急ステント留置術を施行
した一例

Yamashita T:
Endovascular therapy for acute mesenteric ischemia:
Possible roles of interventional cardiologists – Presenter
CIAT 2018, 2018.11.25 (Bangkok, Thailand)

第 46 回 CVIT 北海道地方会 2018.3.30

Yoshihiro Imai MD, Takehiro Yamashita MD, PhD, FACC,
On Topaz MD, FACC, FACP, FSCAI:
Synergistic ELCA-Aspiration-DES Thrombus Removal
Strategy -embolus impact in high-risk plaque-
NCVH annual meeting 2018, 2018.5.30 (New Orleans,
USA) (Digital Poster)

三山博史 長堀亘 鈴木三和子 今井齋博 小熊康教
前野大志 呉林英悟 三浦史郎 大艸孝則 岩切直樹
長島雅人 中川俊昭 山下武廣
カテーテルアブレーションにて抑制しえた心筋梗塞亜急
性期心室細動ストームの一例
第 119 日本循環器学会北海道地方会 2018.6.23

B-3 全国学会（一般学会，ポスター）

今井齋博：

Video Live Demonstration, ACS

第 27 回日本心血管インターベンション治療学会学術集
会（CVIT2018）、2018.8.3（神戸）

長島雅人 山下武廣 小熊康教 前野大志 中川俊昭
冠動脈疾患に合併した肺動脈性肺高血圧症の一例
第 66 回日本心臓病学会学術集会 2018.9.7-9.9

B-4 地方会

山下武廣：

Successful retrieval of detached tip of torquable
microcatheter during rotational atherectomy for calcified
lesion: Never give up when it's still on your guidewire
第 46 回 日本心血管インターベンション治療学会 北海道
地方会, 2018.3.31

山下武廣：

臨床上のアンメットニーズに興味を持ってきました、素
晴らしい先達に出逢えました
第 47 回日本心血管インターベンション治療学会 北海道
地方会, 2018.10.20
(特別公演)

小熊康教、山下武廣

左室内血栓症から心原性脳・腎塞栓症をきたしたアル

呼吸器内科

スタッフ



三品 壽雄
(医師)

I 特色

当科は高度急性期医療を担う病院の呼吸器内科として、主に肺癌の診断・治療および呼吸器疾患の救急医療を行います。

肺癌の診断面では、PET-CT、MRI、超音波ガイド下気管支鏡等を用いた高いレベルの診断を目指し、治療面では手術、化学療法、免疫療法とトモセラピー、陽子線治療等の放射線治療を駆使した集学的治療を行います。

PETと放射線治療装置を備えた病院は札幌市内でも数えるほどであり、特に体に優しいトモセラピー、陽子線といった最新の放射線治療は今後ますます必要性が高まっていくことから、当科ではほかの病院にはできないようなからだに優しい「切らずに治す」治療を行うことが可能です。

放射線治療は早期肺癌が良い適応であることから、呼吸器内科医も参加したドックでの低線量CT検査を積極的に行い、早期の肺癌症例を増やしていくことも大変重要となってきます。

II 診療内容

III 活動報告（症例実績等）

消化器内科

スタッフ



後藤 賢一郎
(主任診療部長・消化器センター長)

高柳 俊明
(診療部長)

I 特色

2018年6月末に後藤医師が退職し泉里医師が東洋医学診療科を立ち上げたため、現在当科は一人体制です。黒田医師（腫瘍血液内科）、泉里医師、非常勤医師の協力で診療を継続しております。外来診療は午前のみです。

II 診療内容

外来診療では、上部、下部内視鏡検査、腹部エコー、腹部CT、腹部MRI等の検査を行っております。大腸ポリープ、消化管出血、イレウス等、必要に応じて入院精査加療を行っております。

III 活動報告（症例実績等）

2018.1～2018.12

上部消化管内視鏡的検査	4,035件（うち、健診2756件）
下部消化管内視鏡検査	638件
内視鏡的胃粘膜切除術 (EMR)	144件
内視鏡的食道静脈瘤結紮術 (EVL)	1件
内視鏡的止血術	38件
PEG 造設	7件
PEG 交換	44件

糖尿病内科

スタッフ



入宇田 能弥
(医長) ※ 2019.5.31 退職

I 特色

日本では6人に1人が糖尿病、もしくはその疑いがある状況です。

当科では、病態や生活状況を確認したうえで、糖尿病合併症の発症・進行を防げるよう、生活習慣の改善・投薬治療を相談して、血糖をコントロールしていきます。

治療にも関わらず合併症が進行する、初診時で合併症が進行している、といった症例も残念ながらあります。その場合は循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、腎臓内科や近隣医療機関との連携により、合併症治療への道筋も相談していきます。

高度急性期病院である当院では手術症例の増加が予測され、その中には血糖コントロールが必要な方もでてくると考えられます。術前の合併症評価や周術期の血糖コントロールについて各科との十分な連携を行い、安全な手術が行えるよう協力していきます。

II 診療内容

III 活動報告（症例実績等）

脳神経内科

スタッフ



柏木 基
(診療部長)

I 特色

脳神経内科では、脳と脊髄から成る中枢神経と、そこから出入りする末梢神経の疾患、ならびに骨格筋や平滑筋等を支配する自律神経の疾患を対象としています。Neurological emergency である髄膜炎、脳炎などの神経感染症、頭痛やめまいなどの機能的疾患、認知症性疾患や筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、パーキンソン病などの神経変性疾患、ギランバレー症候群や慢性脱髄性多発根神経炎（CIDP）や多発性硬化症などの神経免疫疾患に対し、神経学的診察、画像検査、誘発筋電図検査、髄液検査等を駆使し診断、治療、リハビリおよびその後のケアに取り組んでおります。

II 診療内容

現在脳神経内科医は1名で診療を行っており、午前は当院サテライトクリニックである、札幌西孝仁会クリニックで、午後は当院にて月曜日～木曜日に外来を行なっています。

当科ではパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症などの神経変性疾患の診断・治療に取り組んでいるほか、もの忘れ外来を展開し、近年増加傾向があるアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症をはじめとする認知症性疾患の早期発見、早期治療に取り組んでいます。また、本態性振戦患者の診断を行ない、脳神経外科と協力してMRIガイド下集束超音波治療に取り組み、すでに10例の患者の手術協力を行なっています。

入院ではパーキンソン病や多系統萎縮症などの神経変性疾患の内服調整やリハビリテーションを行ないADL拡大をはかるほか、髄膜炎・脳炎などの治療を積極的に行なっています。また、他科と連携し、神経疾患のある患者様で周術期の方の、神経内科的管理やフォローを積極的に行なっています。認知症サポート医としては、社会医療法人孝仁会と関連のある羅臼町からの依頼により、羅臼町初期集中支援チームにかかわりを持ち、また住民の皆様や医療スタッフおよびケアスタッフ向けの講演会を行なうなど、地域事業への参画も行なっています。

III 活動報告（症例実績等）

2018.1～12 退院患者

主な疾患名
筋萎縮性側索硬化症
パーキンソン病
多系統萎縮症
症候性てんかん
ギラン・バレー症候群
合計：34 症例

2018.1～12 外来実患者

主な疾患名
アルツハイマー型認知症
認知症
本態性振戦
パーキンソン病
末梢神経障害
脳梗塞
てんかん
三叉神経痛
合計：641 症例

IV 研究業績

1) 学会発表

- ① 2018/5/12 第9回日本ニューロリハビリテーション学会
中館崇人、乾光則、山口日出志、柏木基、寺川雄三
本態性振戦改善後の上肢機能の変化—経頭蓋MRガイド下収束超音波治療（MR g FUS）臨床試験に
- ② 2018/11/4 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
柏木 基
本態性振戦に対するMRIガイド下収束超音波療法(MR g FUS)による視床焼灼術の治療経験

- ③ 2018/12/15 第1回日本経頭蓋MRガイド下集束超音波治療研究会
山田佑介、宇佐美篤、柏木基、寺川雄三、山本綱記、齋藤孝次
RFゲインの最適化によるMR画像の画質改善に関する検討

- ④ 2018/12/15 第1回日本経頭蓋MRガイド下集束超音波治療研究会
寺川雄三、平孝臣、柏木基、三国信啓、齋藤孝次
本態性振戦に対するMRgFUS初期治療経験とSDRが治療に与える因子についての検討

2) 講演会・研究会発表

- ① 2018/7/21 北海道大野記念病院健康フェスタ
柏木 基
その「もの忘れ」は認知症ですか？
- ② 2018/10/12 平成30年度「地域医療講演会」(羅臼町)
柏木 基
認知症の”人の気持ち”
～思いを理解して関わると・・・～

5) その他

- 日本経頭蓋MRガイド下集束超音波治療研究会 世話人

婦人科

スタッフ



寒河江 悟
(主任診療部長・婦人科がんセンター長)

I 特色

当院婦人科ではがん検診としての積極的な初回 HPV DNA 検査、細胞診・HPV 併用検診、細胞診（液状検体採取）の実施ならびにコルポ診による精密検診などが中心的取り組みであります。あくまで円錐切除という最小手術で妊孕能の温存をはかる治療が可能な症例の発見に努め、「生死に関わる子宮頸癌浸潤がんを近隣地域から撲滅しましょう」という心構えで検診を行っています。

さらに液体窒素による子宮頸部異常に対する冷凍療法を開始しており、7割以上の症例で細胞診異常または HPV 陽性が陰性化しています。今後も円錐切除症例の手術回避をめざして外来治療に精力的に関与しようと考えています。

また内膜癌検診には超音波、内膜細胞診用ブラシならびに Pipet-curet という組織採取器具を導入し組織診での診断を行っており、できるだけ疼痛の少ない治療を行っています。

また最新のコルポスコピー診断装置、高性能超音波診断装置、320列 CT や 3.0T-MRI の導入により、検査後ただちに画像を転送し患者さんに説明を行うシステムを採用し、容易に詳しい説明が可能です。このことにより、手術の必要性の可否、悪性度診断などを行い、経過観察や術前診断の精度を高めるべく努力を行っております。

2017年10月開院以来、上記機器診断に基づいた精度の高い所見の把握を下に、開腹手術を極力避け、腔式手術や腹腔鏡手術を積極的に行っております。2018年婦人科疾患へのロボット手術の保険適応も決まり、徹底的な低侵襲手術を心がけ、より安心安全な手術を目指しています。国内外の最新の臨床試験の成績などの知識を駆使した抗癌剤治療や免疫療法に加えて、副作用を軽減可能かつより効果が高い先進的な放射線治療を行い、新規がん症例のみならず再発症例の予後向上につとめ、さらには患者さんの QOL を最大限考慮した医療を目指しております。

II 診療内容

札幌西孝仁会クリニック

外来部門 検診として HPV 検査を最初に行い、陰性例には 2-3 年後の再検を指示しています。陽性者は直ちに精密検査を行い、次回検査の日程を決めつつ厳重に経過観察を行っております。CIN2-3 以上の診断時には円錐切除を行います。患者さんの利便性を考慮し、検査センターとの共同で HPV 検査の自己採取の試みも行っております。さらには超音波検査、ならびに 3 テスラ MRI、さらに高速 CT 検査を駆使して正確な診断を目指して、手術適応を決めています。

当院外来化学療法室

術後の補助化学療法として Taxol/CBDCA 療法、Avastin 単独投与などを行っています。さらには化学療法中の患者さんの経過観察として採血、諸検査も行っております。遺伝子検査として liquid biopsy も導入しつつあります。

当院 6 階東病棟

入院部門 良性腫瘍（子宮筋腫、卵巣腫瘍など）、子宮頸がん円錐切除術、子宮頸癌手術、子宮体癌手術、卵巣癌手術、術後の補助化学療法などを行っています。がん症例の摘出物は、凍結ブロックあるいはパラフィン切片からの遺伝子異常の検出も積極的に行っており、今後の治療の個別化を目指しております。

北海道大野記念病院健診センター

2018年12月の院内研修講演をきっかけに、婦人科検診（細胞診＋HPV検査の併用検診）を西クリニックにて2019年1月より少数例であるが開始した。今後は健診センターにて一部の症例に併用検診の予定である。

Vogue 2018年4月より

毎週月曜日 16:00-17:45 外来診療 HPV 自己検診が主体で診療中である。

III 活動報告（症例実績等）

手術症例 62例

良性腫瘍 50例（うち腹腔鏡下手術 34例）
子宮筋腫・腺筋症／腹式 8例（腔式から腹式へ 1例含む）
膣上部切断術 1例 腹腔鏡下 20例
筋腫核出／腹腔鏡下 4例
卵巣腫瘍／腹式 3例 腹腔鏡下 10例
子宮脱・膀胱瘤 1例
頸管ポリープ切除術 3例
悪性腫瘍 12例
子宮頸癌 0期／円錐切除 5例 子宮全摘術 1例
子宮体癌／悪性子宮腫瘍手術 3例
卵巣癌／境界悪性 1例 悪性付属器腫瘍手術 2例

化学療法症例 10例

子宮頸癌
子宮体癌／TC療法 1例
卵巣癌／TCB 2例（うち 1例は免疫療法）
B 単独療法 4例を含む
再発症例 子宮体癌 2例／TC療法中 1例
ホルモン療法・免疫療法・RT 後 1例
卵巣癌 2例／DC療法 1例 Olaparib 内服中 1例
がん疼痛緩和ケア 1例

その他

寒河江 悟
JGOG 婦人科悪性腫瘍研究機構 功労会員 2016.12
Gynecologic Cancer Intergroup (GCIG) 功労賞
2017.5 子宮頸癌委員会委員長 2012-2016
日本臨床細胞学会 功労会員 2017.5、
GCIG 会議出席 JGOG GCIG 委員会委員長
2016.6 ASCO シカゴ、2016.11 ESGO ウィーン
日本婦人科がん会議 新潟 世話人 2016.6
北海道産婦人科低侵襲手術研究会 札幌 顧問
2016.11
日本婦人科腫瘍学会 名誉会員 2018.7

IV 研究業績

1) 学会発表

2018年 なし
2019年 今後の予定
土佐 笹木 田上 寒河江
日本臨床細胞学会 2019.6 東京 演題提出済
寒河江 悟
日本婦人科腫瘍学会 2019.7 新潟 演題提出済

2) 講演会・研究会発表

寒河江 悟 子宮頸がん検診の勧め
札幌市医師会講演会 2018.2
寒河江 悟 子宮頸がんは予防できる
PCAF 講演会 Ario 2018.7
寒河江 悟 JGOG 総会 GCIG 委員会報告 2018.12
寒河江 悟 院内研修 2018.12
寒河江 悟 子宮頸がんは予防できる PCAF 講演会
Ario 2019.1

3) 座長・司会

寒河江 悟 ストップ！子宮頸がんの会 座長
東京 2018.10

4) その他

寒河江 悟 北海道産科婦人科学会 監事 2015.1～
寒河江 悟 JGOG 婦人科悪性腫瘍研究機構 功労会員
2016.12
寒河江 悟 Gynecologic Cancer Intergroup (GCI)
功労賞 2017.5
寒河江 悟 日本臨床細胞学会 功労会員 2017.5、
寒河江 悟 GCIG 会議出席 シカゴ
JGOG GCIG 委員会委員長 2018.5
寒河江 悟 日本婦人科がん会議
久留米 世話人 2018.6
寒河江 悟 日本婦人科腫瘍学会 名誉会員 2018.7
寒河江 悟 GCIG 会議出席 ミュンヘン
JGOG GCIG 委員会委員長 2018.10
寒河江 悟 北海道産婦人科低侵襲手術研究会
札幌 顧問 監事 2019.1

頭頸部外科・耳鼻咽喉科

スタッフ



今野 信宏
(主任医長)

I 特色

外来担当：

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は月曜日、金曜日の午後を北海道大野記念病院で、水曜日の午前中を札幌西孝仁会クリニックで診療を行っております。火曜日・木曜日については手術・検査日としております。

当科は一般耳鼻科の診療はもちろん対応可能ですが、頭頸部腫瘍、特に「頭頸部がん」に力を入れております。前述の放射線治療はもちろんですが、化学療法についても当科で対応しております。手術についても今まで行っていた遊離再建手術はもちろんですが、低侵襲治療、QOLの向上を目指した集学的治療を行っております。その他の手術については、良性腫瘍や鼻科手術、アレルギーの舌下免疫療法も行っております。特に頸部腫瘍については傷が目立たない皮膚切開、小切開による手術を行っております。小児（学童期未満）に対しては病院として入院の体制が整備されておらず、対応はできないのが現状です。

地域連携：

当初、耳鼻咽喉科・頭頸部外科については新規開設についてのアナウンスが不十分で、地域住民の皆様には情報が不十分でありましたが、現在は徐々に浸透しつつあります。他院からのご紹介につきましては、患者様に直接ご紹介状を持参していただく場合や、地域連携室を経由して予約していただく事が多いですが、緊急を要するような場合には、直接お電話でご連絡いただければと思います。

II 診療内容

頭頸部癌における低侵襲治療、機能温存術、遊離・有茎皮弁による再建術（ナビゲーション・O-Arm, ICG, 3D内視鏡等使用 ELPS TOVS etc.）

頸部良性腫瘍に対する傷が目立たない皮膚切開による摘出術・小切開手術（甲状腺・耳下腺・顎下腺・頸部嚢胞性疾患 etc.）

術中神経モニターを用いた神経温存

気管切開術

鼻・副鼻腔疾患における内視鏡手術（ナビゲーション、O-Arm、3D内視鏡等使用）
（好酸球性副鼻腔炎等の難治性副鼻腔炎、腫瘍性病変）

神経耳科疾患に対する入院・外来治療

突発性難聴（7～8日入院 高圧酸素療法併用）

顔面神経麻痺（7～8日入院 ステロイド・抗ウイルス薬）

めまい・急性感音性難聴

嚥下障害に対する評価・治療

ビデオ内視鏡検査（VE） 嚥下造影検査（VF）

特殊機器・診療支援機器

純音聴力検査・インピーダンスオージオメータ・自記オージオメータ、ABR, ENoG, CCD フレンチェル内視鏡・記録装置、重心動揺計、外来用顕微鏡、手術用顕微鏡、電子ファイバースコープ3台（NBI ENT-VH2本、ENT-VT2 1本）携帯用軟性内視鏡、副鼻腔手術用内視鏡、神経内視鏡、3D内視鏡、先端湾曲ビデオスコープ（Endoeye flex, Olympus）、開口器付き佐藤式湾曲喉頭鏡、FK-WO リトラクター、ビデオラリントシステム、ショー加熱メス、ハーモニックフォーカス、マイクロ波外科手術用エネルギーデバイス、術中神経モニター装置

III 活動報告（症例実績等）

手術症例

2018/1～2018/12

	件数
鼻内内視鏡手術	9
鼻中隔矯正術	5
鼻甲介切除術	10
口蓋扁桃手術	1
耳下腺腫瘍手術	1
顎下腺（腫瘍）摘出術	0
副咽頭間隙腫瘍摘出術	1
気管切開術	1
声帯ポリープ切除術	1
甲状腺良性腫瘍手術	4
甲状腺悪性腫瘍手術 （咽頭喉頭頸部食道全摘も含む）	5
喉頭腫瘍手術	1
咽頭悪性腫瘍手術	7
頸部郭清術	7
頸部リンパ節生検	7
遊離組織移植による再建術	2
その他	5

化学療法 2018年注射抗癌剤データ

診療科/レジメン名	患者数	レジメン数
耳鼻咽喉・頭頸部外科	12	63
CBDCA（AUC1.5）+RT療法	1	7
Cetuximab+RT療法	1	3
Cetuximab 単独療法	1	1
NDP+DTX療法	2	6
Nivolumab 単独療法	2	30
PF+Cetuximab療法	1	2
PTX+CBDCA（2.5）+Cmab療法	1	1
TPF（DTX+CDDP+5-FU）療法	2	6
weekly PTX+Cetuximab療法	1	7

内服抗癌剤データ

診療科/成分名	処方患者数	処方日数
耳鼻咽喉・頭頸部外科		
テガフル・ギメラシル・オテラシル	4	490
レンパチニブ	1	130

IV 研究業績

1) 学会発表

2018年1月25日～26日 第28回頭頸部外科学会

演題名：頭頸部外科手術におけるマイクロ波外科手術用エネルギーデバイス Acrosurg.（アクロサージ）の使用経験

北海道大野記念病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科
今野 信宏

2018年6月14日～15日 第42回頭頸部癌学会

演題名：頸部手術におけるマイクロ波エネルギーデバイス Acrosurg.（アクロサージ）の使用経験

北海道大野記念病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科
今野 信宏

2) 講演会・研究会発表

2018年9月26日 大鵬薬品社内勉強会（講師）

演題名：頭頸部癌における化学療法について

3) 原著・論文

頸部リンパ節転移を認めた甲状舌管癌例 耳鼻臨床

111：7；507～513, 2018

村山 公介 1)・計良 宗 1)・垣内 晃人 2) 今野 信宏 3)・山崎 徳和 4)・氷見 徹夫 2)

1) 市立函館病院耳鼻咽喉科 2) 札幌医科大学耳鼻咽喉科学教室 3) 北海道大野記念病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 4) 函館五稜郭病院耳鼻咽喉科

麻酔科

スタッフ



原澤 克己 (主任診療部長) 坂本 浩 (診療部長) 枝窪 俊輔 (医師)

I 特色

- ① 御高齢の患者様が多い。
- ② 循環器系の手術（外科と内科を併せて）が半数近くを占める。
- ③ 循環器系の疾患（虚血性心疾患、弁膜症など）で通院歴のある方が多い。

II 診療内容

1. 手術時の麻酔管理
2. 急性期ペインコントロール（入院患者様向け）
3. 集中治療サービス

III 活動報告（症例実績等）

症例実績

麻酔科管理手術症例数 1313 件

（2018年1月1日から12月31日までの1年間）

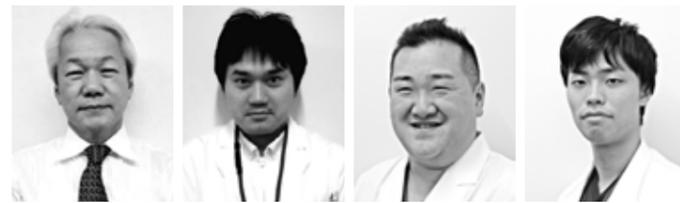
内、科別件数（件）

心臓血管外科 （末梢血管外科を含む）	377
整形外科	379
脊椎脊髄外科	125
脳神経外科 （血管内手術を含む）	119
循環器内科 （アブレーションなど）	123
消化器外科・外科	107
婦人科	62
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	37
乳腺外科	18

※経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI) など複数の診療科が関与している場合はそれぞれの科の件数に加えてあります

放射線治療科

スタッフ



岸 和史 (副院長・札幌高機能放射線治療センター長) | 鳥居 暁 (医師) | 竹山 晃史 (医師) | 喜多 望海 (医師)

I 特色

粒子線治療のみならず高精度高エネルギー放射線治療、および放射線生物学的治療を含むバランスのとれた総合的で最先端のがん治療の提供を目指します。

また、私たちは以下の提供を目指します。

- 大切な正常組織を温存する
- 初発再発 / 単発多発 / 原発転移を問わず、すべてに対し根治的な姿勢である
- 苦痛と不安のない医療の機会をすべての人に開放する
- 開かれた医療環境の中で、最先端の情報処理技術を駆使し高速で緊密な連携を行う

生物学的な理論の上でがんの再発やその予防の指針を提供し、それらをもって、戦う放射線治療科として、患者様に寄り添い、望みを導き叶えていきたいと思っております。

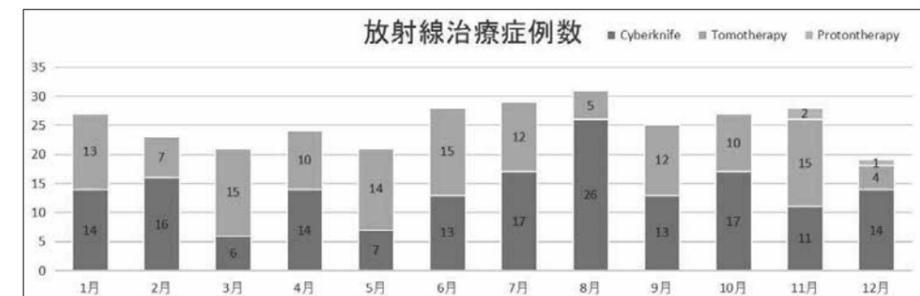
II 診療内容

3つの高精度・高機能な放射線治療機器：陽子線治療装置、トモセラピー、サイバーナイフを全て有する我が国唯一の医療機関として、偏りのない適切な放射線治療を提供することができます。

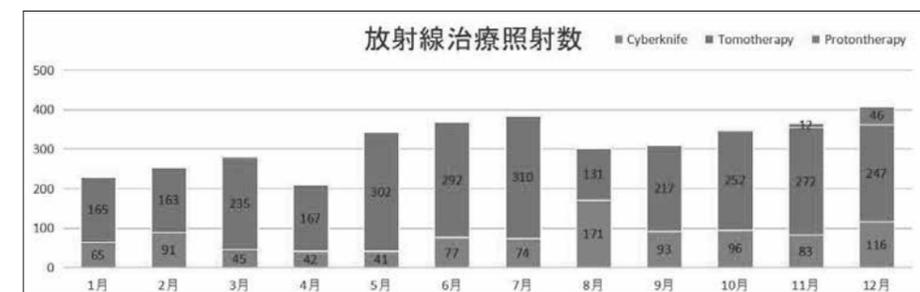
我が国で唯一、IVRの技術を用いた危険臓器回避術を用いることで、私たちはかけがえのない正常組織を温存した放射線治療の提供ができます。

これらの放射線治療戦略に、海外機関と連携し、世界で進む急速な選択的分子 / 免疫標的薬の発展を取り込み、ドラッグラグを乗り越えた最先端の治療機会を患者様に提供することができます。

III 活動報告 (症例実績等)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
Cyberknife	14	16	6	14	7	13	17	26	13	17	11	14
Tomotherapy	13	7	15	10	14	15	12	5	12	10	15	4
Protontherapy											2	1



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
Cyberknife	65	91	45	42	41	77	74	171	93	96	83	116
Tomotherapy	165	163	235	167	302	292	310	131	217	252	272	247
Protontherapy											12	46

項目	サイバーナイフ	トモセラピー	陽子線治療	合計
治療実患者数	79	109	3	191
治療新患者数	60	99	3	162

※陽子線治療の対象期間は 2018/11/19 ~ 2018/12/31
装置間の重複あり

項目	サイバーナイフ	トモセラピー
IMRT 症例数	128	140
定位照射 (頸部)	26	4
定位照射 (体幹)	16	0

IV 研究業績

1) 学会発表

第5回健康気圧マスター取得講座

日 時：2018年5月20日
 会 場：京都大学人間・環境学研究棟地階 大会議室
 演題名：高気圧酸素環境は癌化や癌の転移増殖制御する
 演 者：岸和史

北海道・第一生命共済、経営者セミナー

日 時：2018年5月22日
 会 場：京王プラザホテル札幌メインホール
 演題名：最新のがん資料・粒子線治療～実現した診断
 治療が壁を超える～
 演 者：岸和史

IVR-Gel Spacer Injection, Materials, Technique and Benefit in High Precision Radiotherapy

日 時：2018年6月2日
 会 場：Grand Nikko Tokyo Daiba. Palis Royal Room
 演題名：The 47TH Annual Meeting of the Japanese
 Society of Interventional Radiology The 13TH International
 Symposium of Interventional Radiology.
 演 者：Kishi K, Korii A, Sonomura, T, Shibamoto
 Y, Saito K, Aikawa G, Takada N, Nakamura H, Seki
 H, Sawada R, Kato N.

北海道大野記念病院市民公開講座

日 時：2018年6月10日
 会 場：札幌パークホテル
 演題名：あなたの免疫も守る高機能放射線治療「未来
 への最新治療」
 演 者：岸和史

北海道高気圧酸素環境医学研究会

日 時：2018年6月17日
 会 場：社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院7階
 大会議室
 演題名：高気圧酸素環境はどのように癌化や癌の転移
 移植を制御するのか
 演 者：岸和史 北海道大野記念病院

北海道陽子線治療講演会

日 時：2018年7月1日
 会 場：ロイトン札幌ロイトンホール
 演題名：SAHRAの新しい陽子線治療
 演 者：岸和史 北海道放射線治療講演会事務局（北
 海道大野記念病院内）

第39回夏季放射線腫瘍学セミナー

日 時：2018年8月25日（土）
 会 場：琵琶湖ホテル（滋賀県）
 演題名：Advances in Radiation Oncology
 （Cancer Treatment and Research）
 演 者：岸和史

第48回北海道放射線治療研究会

日 時：2018年9月1日
 会 場：北海道大野記念病院7F 大会議室
 演題名：照射後再発における放射線治療
 演 者：岸和史 北海道放射線治療研究会

市民健康教育講座

日 時：2018年9月20日
 会場：札幌市西保健センター 札幌市西区琴似2条7
 丁目
 演題名：放射線について
 演 者：岸 和史

第5回健康気圧マスター取得講座

日 時：2018年10月20日
 会 場：九州医療スポーツ専門学校 大講義室
 演題名：なぜ医師は高気圧酸素ルームで癌治療をする
 のか？
 演 者：岸和史

第46回和歌山悪性腫瘍研究会

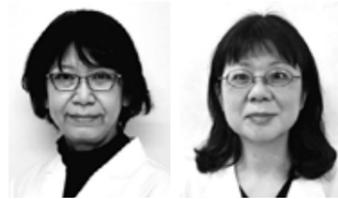
日 時：2018年12月15日
 会 場：和歌山県立医科大学高度人材育成センター5階
 演題名：放射線免疫療法を受けた患者の追跡結果
 演 者：岸和史、鳥居 暁、澤田龍磨、白石祐太、
 宮部泰秀、関 大翔、宮田賢人、吉田匡佑、中村大隆、
 大城沙織

第46回和歌山悪性腫瘍研究会

日 時：2018年12月15日（土）
 会 場：和歌山県立医科大学
 演題名：和歌山医大関連施設で初の粒子線治療施設の
 誕生と運営状況
 演 者：岸和史、真嶋紗妃、川島恵立子、川村貴子、
 本間正美、原雪乃、大友梨奈、邵明亮、永澤佳奈、
 園村哲郎

放射線診断科

スタッフ



宮崎 知保子
(診療部長)

山本 和香子
(医長)

I 特色

移転から2年が経過し、地域皆様のニーズに答えるべく、各科フル稼働の体制で診療にあっております。その支えの一端として、診断検査機器では2台のMRI装置（静磁場強度 1.5テスラと3テスラ）、サイクロトロンを含めたPET/CTや乳房専用PET装置、SPECT装置、デュアルソース256列CT、IVR-CT、血管造影装置などが、毎日、放射線技師のもとに稼働しております。

PET検査では64列MDCTとPETがひとつになった最新PET/CT撮像装置を用いています。当院はサイクロトロンでFDGを作成しておりますので、悪天候や交通事情などによる検査薬供給のstopや遅れに影響されることなく安定した検査が行えます。

F-18 FDG PET/CT検査は代謝の亢進した癌病巣を精度よく検出できます。特に癌においては短時間で全身を一度に検査することが可能であり、再発診断、治療効果判定などきわめて有用な情報をもたらします。早期胃癌を除く悪性腫瘍は保険適用要件となりますので、ぜひご利用ください。またてんかんや虚血性心疾患、心サルコイドーシスにも適応が認められています。保険適用をご確認のうえ、地域医療室にご連絡ください。また当院ホームページからダウンロードしてもお申込みいただけます。

PET-CTドックとしてもF-18 FDG PET/CT検査を行っておりますので、こちらは高度健診センターにお申し込みください。

さらに当院では、N-13標識アンモニアを用いた虚血性心疾患の診断検査も施行しております。虚血性心疾患の正確な評価はもちろんのこと、通常の画像検査では描出の難しい微小血管狭心症などにも心筋血流量算出とともに有効な検査ツールとなっておりますので、ぜひ当院循環器内科にご相談ください。

II 診療内容

放射線診断科は日本医学放射線学会に認定された放射線診断専門医や日本核医学会認定の核医学専門医、PET認定医が常勤医として画像診断に関わる診療を担当しています。各科および地域の医療施設からご紹介いただいた患者さんにCT検査、MRI検査、核医学/PET検査を行い、画像診断報告書を作成、画像データと報告書をお返ししています。特に地域の皆様からご紹介いただいた検査では、速やかに検査結果を報告できるよう対応しております。

まだまだ力不足で、全検査読影体制には至りませんが、各科の多様なニーズに対応すべく最新機器をいかに効率的に使用し、治療に結びつく検査を構築するか、被ばく線量を抑えながら高質な画像を迅速に提供できるよう、診断にかかわる20名の放射線技師とともに考え、一歩ずつ歩んでおります。

III 活動報告（症例実績等）

病理診断科

スタッフ



横山 繁昭
(主任診療部長、病理専門医)

I 特色

患者さんの適切な治療のため、患者さんの体より採取された病変の組織や細胞から顕微鏡用のガラス標本を作製し、顕微鏡で観察して診断するのが病理診断です。

II 診療内容

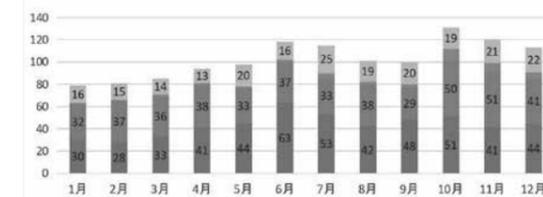
病理診断には以下のようなものがあります。

- 1) 細胞診断
- 2) 生体組織診断
- 3) 手術で摘出された臓器・組織の診断
- 4) 手術中の迅速診断
- 5) 病理解剖

III 活動報告 (症例実績等)

2018年 病理検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
生検	30	28	33	41	44	63	53	42	48	51	41	44	518
手術	32	37	36	38	33	37	33	38	29	50	51	41	455
術中迅速	1	1	2	2	1	2	4	2	3	11	7	6	42
細胞診	16	15	14	13	20	16	25	19	20	19	21	22	220
計	79	81	85	94	98	118	115	101	100	131	120	113	1235



検体区分	計	依頼科	件数	材料 (一人で複数種もあり)	件数
生検	518	消化器内科	295	食道	25
		腫瘍血液内科	136	胃・十二指腸	184
		東洋医学診療科	20	上行結腸	52
		乳腺外科	32	横行結腸	47
		循環器内科	11	下行結腸	31
		放射線治療科	12	S状結腸	94
		消化器外科	3	直腸	52
		耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	3	盲腸	24
		婦人科	2	回腸	5
		整形外科	2	肛門	1
		脊椎脊髄外科	1	虫垂	1
		皮膚科	1	肝臓	4
				胆管	3
				脾臓	2
				心筋	6
				胸膜	1
				肺	6
				咽頭	3
				鼻粘膜	1
				乳腺	28
				子宮	2
				骨髄	32
				骨・骨膜	2
				前立腺	1
				血栓	4
				リンパ節	3
				皮下組織	2
		主乳頭	1		
		膿腫排出物	2		
手術材料	455	心臓血管外科	161	弁膜	117
		消化器外科	75	血管	58
		婦人科	61	心筋	8
		脳神経外科	44	心膜	6
		耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	41	血栓	1
		脊椎脊髄外科	36	右房内腫瘍	1
		乳腺外科	21	冠動脈内異物	1
		整形外科	13	ブレード	1
		循環器内科	1	脳腫瘍	33
		外科	2	胃	10
				胆嚢	42
				肝臓	4
				脾臓・脾臓	6
				大腸	26
				直腸	1

			虫垂・盲腸	8	
			小腸	1	
			子宮	47	
			卵巣・付属器	12	
			体網	1	
			乳腺	18	
			咽頭	12	
			副鼻腔	9	
			甲状腺	8	
			舌	2	
			耳下腺	1	
			頭頸部腫瘍	1	
			骨髄	11	
			椎間板	24	
			靭帯	5	
			軟部腫瘍	8	
			骨髄	5	
			皮下腫瘍	4	
			脇下腫瘍	1	
			リンパ節	66	
			神経腫瘍	2	
			菌塊	1	
術中迅速	42	乳腺外科	15	リンパ節	17
		脊椎脊髄外科	12	脳腫瘍	9
		脳神経外科	7	卵巣腫瘍	3
		婦人科	7	脊椎腫瘍	10
		耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1	鼻茸	1
			食堂	1	
			軟部組織	1	
細胞診	220	泌尿器科	55	自然尿	62
		循環器内科	29	カテ尿	2
		耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	24	腹腔洗浄	14
		腫瘍血液内科	23	喀痰 (蓄痰含む)	23
		消化器外科	18	肺	2
		呼吸器内科	12	甲状腺	19
		放射線治療科	12	耳下腺	1
		脳神経外科	10	胸水	38
		心臓血管外科	7	腹水	16
		婦人科	7	心嚢液	5
		糖尿病内科	6	リコール	16
		検診科	5	乳腺	3
		乳腺外科	4	唾液	3
脊椎脊髄外科	4	胆汁	5		
外科	2	胆管	4		
東洋医学診療科	2	関節液	3		

IV 研究業績

学会発表

CPC

2018/4/26 A-18-01 「重症心不全、難治性胸水を呈した85歳女性の一例」

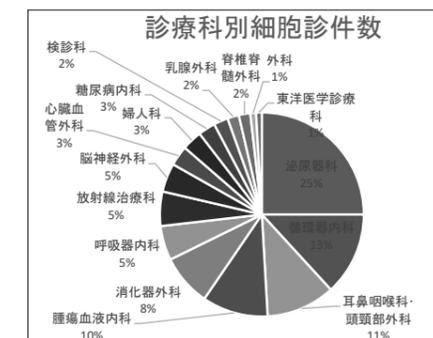
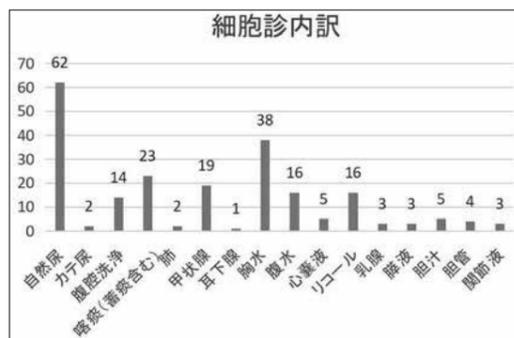
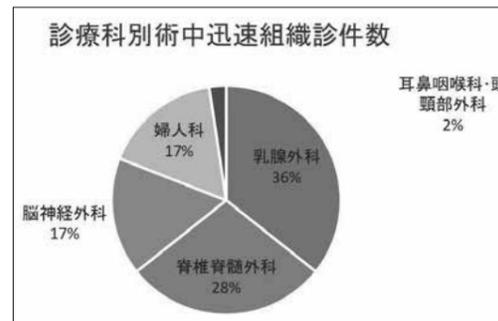
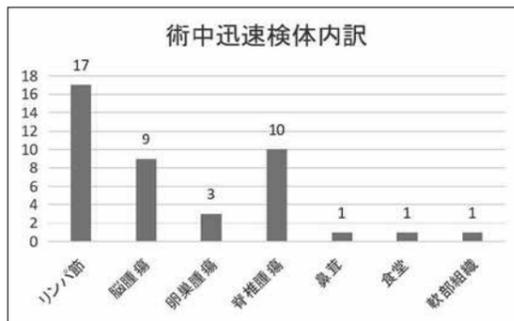
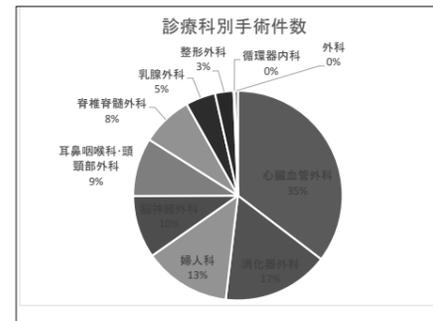
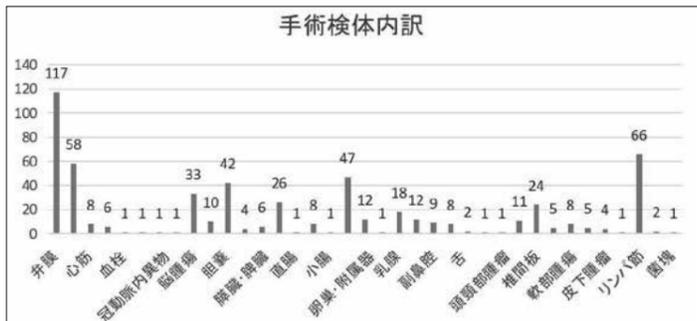
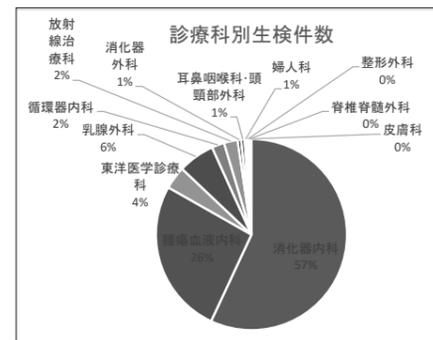
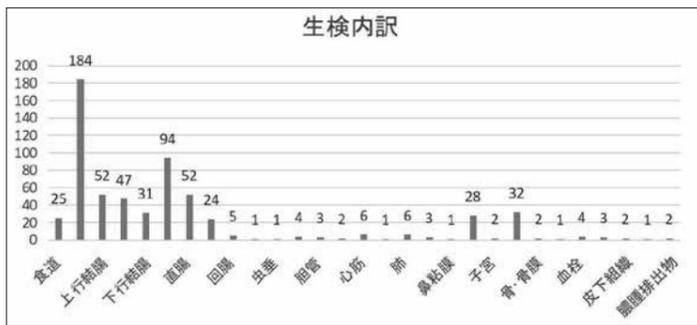
発表者・臨床：循環器内科 医長 小熊 康教（北海道大野記念病院）

病理：菅原 太郎（札幌医科大学病理診断科）

2018/10/2 A18-02 「薬剤過敏症候群にて発症した難治性心筋症にて死亡した40歳男性の一例」

発表者・臨床：循環器内科 主任医長 三山 博史（北海道大野記念病院）

病理：杉田 真太郎（札幌医科大学病理診断科） 伊藤 夢美香（札幌医科大学病理診断科）



リハビリテーション科

スタッフ



山口 日出志
(診療部長)

I 特色

【急性期リハビリテーション】

発症直後や手術直後など、病状安定のために治療を要する急性期からリハビリテーションを行うことは、臥床に伴う廃用症候群を防止するとともに、その後の病状や機能回復において大事なことです。当院ではこの急性期から患者さんの状態や安全に配慮し、主治医と連携をとりながらリハビリテーションを行っています。

【多様なリハビリテーション】

「がん」「脳卒中」「心臓病」の三大疾患と運動器疾患を中心に、さらに重複障害に対応するため、心大血管疾患、脳血管疾患等、廃用症候群、運動器、呼吸器、がん患者など様々なリハビリテーションを行っています。

【リハビリテーションチームと多職種カンファレンス】

リハビリテーション科医師及び理学療法士、作業療法士、言語療法士などのリハビリテーション部セラピストが一体となりチームとしてリハビリテーションを行います。また、リハビリテーションチームと主治医、看護師、栄養士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師などが多職種カンファレンスを開催し、病状を含めた様々な情報を共有し今後の治療方針や方向性をリハビリテーションに反映させていきます。

【ロボット、電気刺激装置などの先端機器】

HAL® 自立支援用単関節ロボット、電気刺激装置ウォークエイド®などの先端機器を使用したリハビリテーションを行っています。

II 診療内容

リハビリテーション室での診察 (医師)

疾患別リハビリテーションに沿って病棟回診 (各週 1 回、医師・セラピスト)

病棟別あるいは疾患別に多職種カンファレンスを開催 (各週 1 回)

各科カンファレンスに参加 (医師、セラピスト)

< 施設基準 >

がん患者リハビリテーション料

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)

心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

運動器リハビリテーション料 (I)

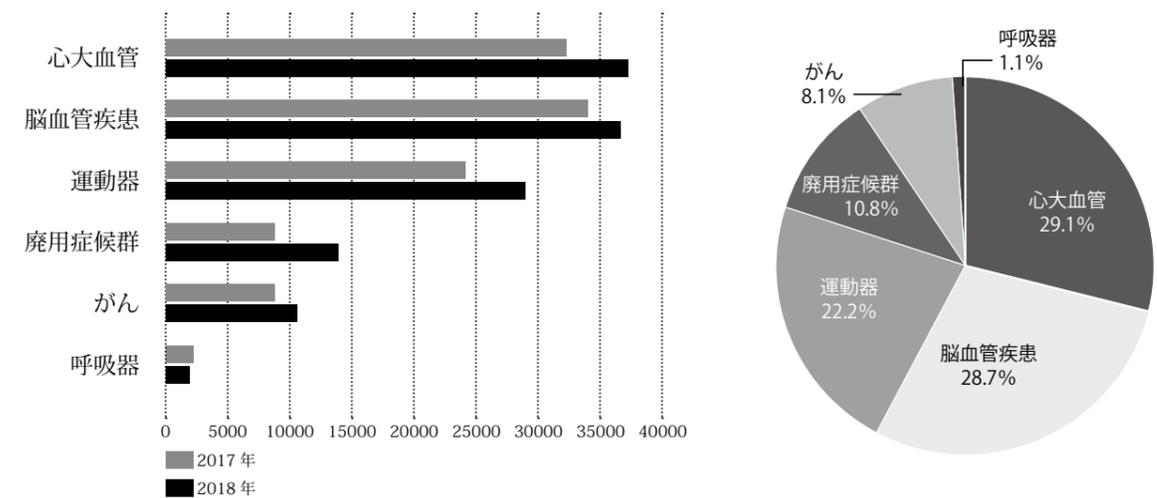
廃用症候群リハビリテーション料 (I)

呼吸器リハビリテーション料 (I)

III 活動報告 (症例実績等)

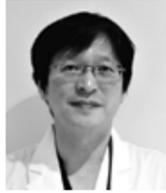
疾患別リハビリテーション実施単位数

実施単位割合



乳腺外科

スタッフ



小宮 裕文
(診療部長)

I 特色

乳腺疾患全般において、診断と治療を行なっています。

II 診療内容

週3回、午後に外来を行っており、併設の外来化学療法センターにおいて、乳癌に対する化学療法を施行しています。

手術は、乳癌の手術、センチネルリンパ節生検、乳房同時再建術、上腕部ポート作成、生検などを行っています。

III 活動報告（症例実績等）

症例実績

マンモグラフィ：293例（検診195、乳腺外来98）

上腕部ポート作成：9例

乳房全摘術：9例（同時再建1例を含む）

乳房温存手術：10例

術前化学療法：1例

術後化学療法：1例

進行・切除不能乳癌（ステージIV）：HER 2 type：1例 TNBC：1例

再発乳癌：luminal type：3例 HER 2 type：1例 TNBC：2例

IV 研究業績

1) 学会発表

日本乳がん検診学会学術集会 女性職員検診で発見された乳癌の検討：共同演者

2) 講演会・研究会発表

釧路市：民公開講座 乳がんに関する講演

札幌市：市民公開講座（場所：チエリア）乳癌についての講演

腫瘍血液内科

スタッフ



黒田 裕行
(診療部長)

I 特色

当科は2018年4月に開設された新しい診療科で、腫瘍内科と血液内科の2つの領域からなる病気の診療にあたります。腫瘍内科で診療する疾患は、あらゆる癌(がん)や肉腫(にくしゅ)が対象であり、臓器専門でない横断的な診療となります。開設後は消化器癌(胃癌・大腸癌・肝細胞癌・膵癌など)と造血器腫瘍(白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群・骨髄増殖性疾患など)の化学療法・分子標的治療を中心に行っております。また、各種貧血および血小板・凝固系異常の診療を行っています。さらに消化器内科を支援して、消化管出血・胆嚢炎・胆管炎・肝炎・大腸ポリープ・炎症性腸疾患などの消化器内科の良性疾患についても対応しております。消化管出血・胆嚢炎・胆管炎・肝炎・大腸ポリープに対して内視鏡治療を、肝細胞癌や胆道癌・膵癌に対して血管造影や経皮的ドレナージおよび内視鏡的処置によるインターベンションも展開しております。当院は虚血性心疾患や脳梗塞の高齢患者さんが多い背景から、院内外からの紹介により骨髄増殖性疾患(慢性骨髄性白血病・真性赤血球増多症・本態性血小板血症・原発性骨髄線維症)や骨髄異形成症候群が新たに診断され治療を要する機会が多いことが特徴です。

II 診療内容

- ①造血器腫瘍の診断治療
- ②血液疾患の診断治療
- ③消化器癌に対する化学療法・分子標的治療・免疫チェックポイント阻害薬
- ④消化器内視鏡による治療
- ⑤ウイルス性・自己免疫性など各種肝炎や炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病など)の診断治療(生物学的製剤など)
- ⑥血管造影や経皮的処置による診断治療(インターベンション治療)

III 活動報告(症例実績等)

2018/4 ~ 2018/12

① 新規血液疾患

悪性リンパ腫	5例
多発性骨髄腫	3例
急性骨髄性白血病	1例
慢性骨髄性白血病	1例
真性赤血球増多症	4例
本態性血小板血症	3例
原発性骨髄線維症	2例
骨髄異形成症候群	9例
再生不良性貧血	1例
特発性血小板減少性紫斑病	3例

② 検査件数

骨髄穿刺生検	33件
--------	-----

③ 消化器癌化学療法

胃癌	1例(ニボルマブなど)
膵癌	2例(FOLFIRINOXなど)
肝細胞癌	4例(レンバチニブなど)
大腸癌	1例(RAM-FOLFIRIなど)

④ 内視鏡治療

早期大腸癌切除術	6件
食道静脈瘤結紮術	1件
食道静脈瘤硬化療法	1件
大腸狭窄バルーン拡張術	2件
胆管結石排石術	5件
胆管ステント留置	11件
膵管ステント留置	1件
ERCP(うち治療内視鏡)	23件(17件)

⑤ 炎症性腸疾患

潰瘍性大腸炎	4例(インフリキシマブなど)
--------	----------------

⑥ インターベンション治療

肝動脈化学塞栓療法	7件
肝動脈塞栓療法	1件
経皮経肝胆嚢ドレナージ	7件
経皮経肝胆管ドレナージ	3件

IV 研究業績

1) 論文

Severe adverse events by tyrosine kinase inhibitors decrease survival rates in patients with newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia.

Ota S, Matsukawa T, Yamamoto S, Ito S, Shindo M, Sato K, Kondo T, Kohda K, Sakai H, Mori A, Takahashi T, Ikeda H, Kuroda H, Haseyama Y, Yamamoto M, Sarashina T, Yoshida M, Kobayashi R, Nishio M, Ishihara T, Hirayama Y, Kakinoki Y, Kobayashi H, Fukuhara T, Imamura M, Kurosawa M.

Eur J Haematol. 2018 Jul;101(1):95-105. doi: 10.1111/ejh.13081

Imatinib Stop Study Feasible to Japanese Clinical Setting: Delightedly Overcome CML Expert Stop TKI Trial (DOMEST Trial)

Fujisawa S, Ueda Y, Usuki K, Kobayashi H, Kondo E, Doki N, Nakao T, Kanda Y, Kosugi N, Kosugi H, Kumagai T, Harada H, Shikami M, Maeda Y, Sakura T, Inokuchi K, Saito A, Nawa Y, Ogasawara M, Nishida J, Kondo T, Yoshida C, Kuroda H, Tabe Y, Maeda Y, Imajo K, Kojima K, Morita S, Komukai S, Kawaguchi A, Sakamoto J, Kimura S. Int J Clin Oncol. 2018 Nov 12. doi: 10.1007/s10147-018-1368-2

脊椎脊髄外科

スタッフ

金子 高久
(診療部長・脊髄センター長)村上 友宏
(主任医長)早瀬 仁志
(医長)

I 特色

高齢化社会を迎え、腰痛、骨折など整形疾患の治療はさらに重要性を増しています。当科の特徴として、心臓の病気や糖尿病、血液透析などの疾患を持った方々が多く来診されることが挙げられます。これらの方々が安心して手術治療を受けられるよう、担当科の先生方と連携しながら診療を進めています。

首や腰などを扱う脊椎・脊髄外科では、日本に数台しかない術中移動型 CT である O-arm とナビゲーションシステムを組み合わせ、最大限安全に配慮した手術を行うことを心がけています。さらに最先端技術の低侵襲腰椎前方椎体間固定術 (OLIF, XLIF) により、難易度の高いとされる脊椎変形 (側弯症、後弯症) や脊椎外傷、脊椎感染症で、より低侵襲で安全に治療することを目指します。最近では症例によって経皮的内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術 (PELD) など、低侵襲な手術手段を導入しております。

II 診療内容

治療対象疾患

腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア

変性すべり症、腰椎分離・すべり症

胸腰椎椎体骨折 (骨粗鬆症、外傷)

頸椎椎間板ヘルニア、変形性頸椎症

頸椎後縦靭帯骨化症、

頸椎損傷

化膿性椎間板炎

脊柱変形 (側弯症・後弯症 - 「腰曲がり」)

得意とする治療

腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアに対する除圧術

腰椎変性すべり症、分離・すべり症に対する除圧固定術

頸椎症性脊髄症、頸椎後十靭帯骨化症に対する椎弓形成術

頸椎椎間板ヘルニアに対する前方除圧固定術

頸椎損傷に対する前、後方固定術

経皮的腰椎間板ヘルニア摘出術

脊柱変形 (側弯症・後弯症) に対する矯正手術

III 活動報告 (症例実績等)

2018/1/1 ~ 2018/12/31

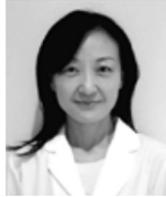
頸椎	前	ACDF	12
		頸椎前方椎体置換	1
		Odontoidscrew	1
	後	頸椎椎弓形成術	7
		頸椎後方固定術	1

胸腰椎	OLIF	前後方同時固定	53
		前方のみ	2
	XLIF		1
	TLIF		22
	椎弓切除術		4
	前方椎体置換		2
	後方椎体置換		1
	後方固定術		2
脊柱変形矯正固定術 (2 期的)		10	

BKP	28
PELD	11
腫瘍摘出術	2
その他	6

東洋医学診療科

スタッフ



泉里友文
(医長)

I 特色

東洋医学診療科は2018年7月に新設された診療科です。

これまで、消化器内科に含まれる形で漢方診療をしてまいりましたが、新たに自費の「はり外来」を加え、より東洋医学に特化して診療できるように新たに独立いたしました。

近年、医学の進歩には目覚ましいものがあり、診断技術の発達に伴い新たな疾患が増えてきています。長年、大学病院で消化器外科専門医・消化器内視鏡専門医として診療に携わって来て、現代医学だけでは解決できない症状や疾患、検査で異常の出ない症状が依然として多く、臨床上治療に苦慮することが多々ありました。そのような患者を救う手段の一つとして東洋医学を習得しようと、台湾留学を経て現地の医師免許を取得しました。

当科では、臓器ごとではなく、患者のすべてをまとめて治療する全人医療を目指しています。中国医学（中医学）の理論に基づく治療をしていますので、現代医学とは違った視点で患者を診察し、漢方治療や針治療など現代医学とは違った治療法を提供しています。

まだできたばかりの新しい診療科ですが、患者さん同士の口コミが多く、近医からの紹介患者さんも少しずつ増えてきています。

II 診療内容

週二回の東洋医学外来と週一回の自費はり外来を行っています。

当科では、必要があれば検査や専門医との連携を取りつつ、例えば以下のような症状に対応しています。

- 症状があるのに検査では異常ないと言われた
- 体がだるい、元気がない、疲れやすい、体力の低下、冷え性、風邪をひきやすい
- 月経痛、更年期障害、月経前症候群、不妊症など
- ストレスで体調が悪い、精神的な落ち込み、不眠
- 便秘、下痢、食欲不振
- 肩こり、視力低下、耳鳴、顔面神経麻痺、神経痛

III 活動報告（症例実績等）

IV 研究業績

1) 講演会・研究会発表

2018年1月12日：大野病院院内講演

私が恋した中医学

2018年7月12日：三角山放送局

医学ひとくち講座 東洋医学について

2018年7月21日：北海道大野記念病院

健康フェスタ 東洋医学で体調を整えよう

2018年11月28日：ツムラ社内研修会

台湾と日本の漢方治療の違い

高度健診センター

スタッフ



尾形 仁子
(主任診療部長・高度健診センター長)



太田 るみ子
(医師)

I 特色

- ・人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施施設

社会医療法人孝仁会では三大疾病とされる「がん」「心疾患」「脳血管疾患」に対する健診を積極的に展開しております。当センターでは64列PET/CTや3テスラーMRIなど最新の設備による精度の高いがんドックや脳ドックを行っております。また札幌市内では唯一の最先端装置である乳房専用PET装置「PEMGRAPH」を配備しマンモPETによる乳がん検診が可能です。マンモPETと全身のPET/CTを同日に行えるレディースPET/CTコースも行なっています。当センターでは寒河江主任診療部長の指導のもとヒトパピローマウイルス（HPV）の診断に力を入れており、2018年12月より子宮がん検診時にはHPV検査も同時に施行しています。当センターは日本人間ドック学会の「人間ドック健診機能評価認定施設」の認定を受け、質の高い健診を提供している信頼できる施設であると認められています。また1)当施設の人間ドックに心エコー、血圧脈波が基本項目として盛り込まれていること、2)医師による当日の結果説明及び保健師による当日の保健指導体制が整っており、その実施率が高いこと、なども高い評価を受けています。皆様の健康増進のお役にたてるよう丁寧な説明を心がけています。受診者の皆様に「来年も受けたい」と思っていただけるようなサービスをご提供できるよう取り組んでまいります。

II 健診内容

人間ドック（1日・2日）の実施

各種健康診断（生活習慣病予防健診、一般健診、特定健診、特殊健診）の実施

専門ドック（PET/CTドック、脳ドック）の実施

III 活動報告（症例実績等）

2018年1月～12月 健診実績

- ・人間ドック：850
- ・生活習慣病予防健診：4041
- ・一般健診：2904
- ・巡回健診：2540
- ・PET/CTドック：178
- ・レディースPET/CTドック：12
- ・脳ドック：155
- ・心臓エコー検査：644
- ・オプション検査数
 - 乳がん検診：392
 - CT：124

IV 研究業績

1) 講演会・研究会発表

市民公開講座(2018.7.17) 札幌市西保健センター
「健診を活かす一健やかな日々を過ごすために」

2) 座長・司会

第66回日本心臓病学会学術集会(2018.9.9) 大阪国際会議場
一般演題(eポスター)：症例報告 たこつぼ型心筋症